

# 一関・平泉定住自立圏共生ビジョン

平成 26 年 3 月

一関市



## 一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 目次

I	定住自立圏の名称	
1	定住自立圏の名称	(2)
2	圏域を形成する市町の名称	(2)
II	定住自立圏共生ビジョンの目的	
1	定住自立圏共生ビジョンの目的	(2)
2	定住自立圏共生ビジョンの期間	(2)
III	定住自立圏の将来像	
1	圏域の現状	(3)
2	圏域の将来像	(5)
IV	定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組み	
1	生活機能強化に係る政策分野の取組	
(1)	医療	(8)
(2)	福祉	(10)
(3)	産業振興	(12)
(4)	教育及び文化	(18)
(5)	消防防災	(22)
2	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野の取組	
(1)	公共交通	(23)
(2)	交通インフラ整備	(24)
(3)	協働のまちづくり	(26)
(4)	地域内外の住民との交流、移住促進	(27)
3	圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の取組	
(1)	中心市等における人材育成	(28)

## I 定住自立圏の名称

### 1 定住自立圏の名称

一関・平泉定住自立圏

### 2 圏域を形成する市町の名称

一関市及び平泉町

## II 定住自立圏形成ビジョンの目的

### 1 定住自立圏共生ビジョンの目的

本ビジョンは、一関市と平泉町の間で締結した定住自立圏形成協定に基づき、魅力ある定住自立圏を形成するため、適切に役割を分担しながら、圏域全体として目指すべき将来像を掲げるとともに、今後、連携し推進する具体的な取り組みを示すものです。

### 2 定住自立圏共生ビジョンの期間

平成 26 年度（2014 年度）から平成 30 年度（2018 年度）までの 5 年間とし、毎年度、所要の見直しを行うものとします。

### Ⅲ 定住自立圏の将来像

#### 1 圏域の現状

##### (1) 位置と範囲

本圏域は、岩手県の南端に位置し、南部は宮城県に、西部は奥羽山脈を隔てて秋田県に、北部は奥州市、東部は気仙地区にそれぞれ接している。また、圏域の中心都市である一関市は盛岡市と仙台市のほぼ中間（それぞれ約 90 キロメートル）に位置し、東京都は新幹線で約 2 時間の距離にある。

圏域は、一関市、平泉町の 1 市 1 町で構成され、総面積 1,319.64 平方キロメートルで県土の 8.6 パーセントを占めている。

面積 (単位：km<sup>2</sup>)

区分	一関市	平泉町	圏域合計
面積	1,256.25	63.39	1,319.64
構成比	95.2%	4.8%	100.0%



##### (2) 地勢と気候

本圏域は、中心部を貫流する北上川と、その支流である太田川、磐井川、砂鉄川、千厩川、黄海川などの流域にひらけた地域であり、その地勢は次の三つに分けられる。

一つは奥羽山脈にある標高 1,628 メートルの栗駒山から北上川流域に至る標高差の大きい西部山岳地帯、一つは北上川流域を中心とする低地平野部、一つは標高差は緩やかながら起伏に富んだ北上山系の一部をなす東部丘陵地帯の三地域であり、西部山岳地帯の一部は栗駒国定公園に、また東部丘陵地帯の一部は室根高原県立自然公園に指定されているなど豊かな自然景観に恵まれている地域である。

気候は、内陸型の特徴を示し、気候の比較差、年較差は大きいものの、県内では比較的温暖な地域である。

### (3) 歴史

本圏域は、11～12 世紀に藤原氏が奥州全域を統治し黄金文化が開花した時代の中心であり、極めて高度な政治、経済、文化を有して、東北地方に数少ない繁栄の時代をもたらした地域であった。

藩政時代は、仙台藩及びその支藩である一関藩に属し、廃藩置県の際には現在の岩手県南と宮城県北部一帯に一関県が置かれるなど、もともと歴史的・風土的に古くから宮城県北部との結びつきは強く、現在でも人的、物的交流が極めて深いものとなっている。

### (4) 交通条件

本圏域は、中心部を東北縦貫自動車道、東北新幹線など高速交通幹線が南北に縦断しており、これらと並行して国道 4 号、東北本線が走り、さらに国道 284 号、343 号及び 346 号や JR 大船渡線が東西に横断して内陸部と三陸沿岸部を結んでいる。

また、国道 456 号が県央から一関市東部を経て宮城県へ、国道 342 号と 457 号がそれぞれ一関市西部から秋田県及び宮城県へ通じている。

このほか、主要地方道が東西方向、南北方向にそれぞれ伸びており、これら主要幹線道路と一般県道、市町道、広域営農団地農道等によって圏域道路網が形成され、住民生活はもとより産業、経済活動の重要な基盤としてその役割を果たしている。

### (5) 人口の見通し

平成 22 年 (2010 年) の国勢調査によると、本圏域の人口は 135,987 人となっており、平成 17 年より (2005 年度) 5.95%、8,080 人減少しており、昭和 30 年 (1955 年) の 185,454 人をピークに減少を続けている。

本圏域の人口は、これまでのすう勢から今後も減少を続け、平成 42 年 (2030 年) には 103,092 人、平成 52 年 (2040 年) には 87,610 人程度になるものと見通される。

	平成 22 年 (2010 年)	平成 27 年 (2015 年)	平成 32 年 (2020 年)	平成 37 年 (2025 年)	平成 42 年 (2030 年)	平成 47 年 (2035 年)	平成 52 年 (2040 年)	減少率
一関市	127,642	120,912	112,705	104,566	96,789	89,408	82,277	▲ 35.54
平泉町	8,345	7,828	7,319	6,802	6,303	5,822	5,333	▲ 36.09
圏域合計	135,987	128,740	120,024	111,368	103,092	95,230	87,610	▲ 35.57
岩手県	1,330,147	1,266,388	1,206,441	1,139,825	1,072,339	1,005,329	938,104	▲ 29.47

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成 25 年 (2013 年) 3 月推計)」

## 2 圏域の将来像

今日の社会情勢は、少子高齢化の進行、高度情報化社会の進展、産業・就業構造の変化、グローバル化の進展など大きく変化している。

人口減少の速度は、岩手県は全国平均より早く進んでいます。また、一関市と平泉町からなるこの圏域は県内他市の平均よりさらに速く、急激な人口減少に伴う地域社会の活力の低下が危惧されている。

一方で、住民や企業等の経済活動圏、生活圏は市町村の枠を越えてさらに広域化しており、また、人口減少と高齢化がさらに進む中で、行政に対するニーズも多様化、高度化してきていることから、現在の行政サービスのあり方を、広域的視点に立った、時代に合ったものに変えていくことが求められている。

このような状況を踏まえ、人口減少社会や高齢化社会に対応できる地域づくりのためには、しっかりとした定住施策が必要なことから「一関・平泉定住自立圏」を形成し、次の3つを基本的な視点とし、両市町の特性と機能を尊重しながら、住民の立場に立った適切な機能分担による連携を図り、圏域の一体的な発展により住み良い圏域を目指すものである。

住みよいまち、安心して暮らせるまちをつくるためには高齢者や子育て世代への支援、雇用対策、産業振興などの施策を一つひとつ積み上げていくことが必要であり、高齢者にやさしく、子育てしやすい圏域を目指すものです。

当圏域には平泉の文化遺産を中心とする歴史、文化、産業など多くの地域資源があり、その資源を生かした地域づくりを行い、歴史と文化が薫る圏域を目指すものです。

国際リニアコライダーの実現により、圏域における国際化のさらなる進展が見込まれることから、協働のまちづくりにより、国際化に対応した人材の育成を図るとともに、世界と日本の多様な文化が会う圏域を目指すものです。

## IV 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的な取り組み

### 1 生活機能の強化に係る政策分野の取組

#### (1) 医療

##### ①地域保健医療体制の充実（1事業）

- ・休日及び夜間における診療体制の確立

##### ②医療従事者の確保対策（1事業）

- ・地域医療確保対策事業

#### (2) 福祉

##### ①総合的な子育て支援（1事業）

- ・保育料の軽減

##### ②介護サービスの基盤整備（1事業）

- ・地域医療・介護連携推進事業

#### (3) 産業振興

##### ①世界遺産「平泉」を中心とする観光の振興（4事業）

- ・一関・平泉バルーンフェスティバル事業
- ・観光地間二次交通整備事業
- ・一ノ関駅屋上看板リニューアル事業
- ・いちのせき「もち」ブランド化支援事業

##### ②中小企業の育成等の工業振興（1事業）

- ・企業の魅力発信力向上事業

##### ③農産物のブランド化などの農業振興（3事業）

- ・地産外商促進事業
- ・農林業6次産業化支援事業
- ・地域農産物等直売施設整備事業

#### (4) 教育及び文化

##### ①教育環境の整備や教育内容の充実（1事業）

- ・学校給食運営事業

##### ②生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興（1事業）

- ・体育施設整備事業

##### ③世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理（2事業）

- ・世界文化遺産調査整備事業
- ・世界遺産拡張登録推進事業



(5) 消防防災

①消防防災体制などの充実（1事業）

- ・広域消防事業

2 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野の取組

(1) 地域公共交通

①バス等の地域公共交通の維持（1事業）

- ・生活バス路線対策事業

(2) 交通インフラ整備

①圏域市町間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進（2事業）

- ・基幹道路等整備促進事業
- ・幹線道路等整備事業

(3) 協働のまちづくり

①行政と協働した地域づくり（1事業）

- ・協働のまちづくり事業

(4) 地域内外の住民との交流、移住促進

①移住定住の促進（1事業）

- ・移住定住環境整備事業

3 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野の取組

(1) 中心市等における人材育成

①外部人材の確保（1事業）

- ・まちづくり総合支援事業

## 1 生活機能の強化

### (1) 医療

#### 【協定の内容】

##### ①地域保健医療体制の充実

取組の内容	保健・医療における生活者の視点に立った総合的な相談体制の確立や、市民が安心して医療サービスを受けることができるよう、さまざまな医療機関等の連携を強化しながら、地域保健医療体制の充実に取り組む。
一関市の役割	病診連携、輪番制による救急医療体制の確立のため、関係機関等との調整を行うとともに、圏域の医療機関等に対し必要な支援を行うほか、医療機関の役割分担と連携強化によって医療の効率化を図るため、圏域医療機関等と連携し、住民に対するかかりつけ医制度等の普及活動など地域保健医療充実のための施策に対し、必要な協力及び支援を行う。
平泉町の役割	圏域の救急医療体制の確立や医療機関の連携強化、かかりつけ医制度の普及など地域保健医療充実のための施策に対し、必要な協力及び支援を行う。

#### 【具体的な取り組み】

事業名	休日及び夜間における診療体制の確立					関係市町
事業内容	圏域内の休日及び夜間における初期救急医療体制を確保するため、一関市医師会及び関係機関と連携し、休日及び夜間における初期救急医療等を実施する。					一関市 平泉町
期待される効果	休日及び夜間の医療提供体制を確保することにより、圏域住民の安心と安全が確保される。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					▶
事業費見込 (千円)		48,968	48,968	48,968	48,968	48,968
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域の医療体制の充実を図るため、両市町をエリアとする一関医師会の協力のもと、一関市が関係機関等の調整を行い、休日及び夜間における医療提供体制を確保し、平泉町はその費用の一部を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

【協定の内容】

②医療従事者の確保対策

取組の内容	圏域における医師をはじめとした医療従事者の確保に努めるとともに、圏域が抱える地域医療の課題解決に取り組む。
一関市の役割	圏域における医師をはじめとした医療従事者の現状を把握し、その確保を図るとともに課題解決に向けた取組を推進する。
平泉町の役割	圏域の医療従事者確保のため、医師等の確保に向けた取組を推進する。

【具体的な取り組み】

事業名	地域医療確保対策事業					関係市町
事業内容	医師確保対策として、将来医師として一関市内の公的医療機関に勤務しようとする者に、修学資金を貸し付け、これらの者の就学を容易にすることにより、医師確保に努める。					一関市
期待される効果	圏域内の医療従事者の確保を図ることにより、圏域住民の安心と安全が確保される。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					▶
事業費見込(千円)		22,296	22,296	22,296	22,296	22,296
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	両市町は、同一の医療圏に属しているところであり、圏域として医師確保を図るため、一関市が奨学金貸付事業を実施し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

(2) 福祉

【協定の内容】

①総合的な子育て支援

取組の内容	次代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを社会全体で応援するため、子育てにかかる経済的負担の軽減や安心して子育てができる環境整備のための施策など、総合的な子ども・子育て支援に取り組む。
一関市の役割	母子保健事業の充実や相談体制の確立を図るとともに、安心して子どもを産み育てる環境づくりと、幼稚園、保育園のサービスを充実し、子どもを豊かに育む保育環境の整備を推進する。
平泉町の役割	安心して子どもを産み育てる環境づくりをはじめとする総合的な子ども・子育て支援を推進する。

【具体的な取り組み】

事業名	保育料の軽減					関係市町
事業内容	第3子の保育料無料化や各階層毎の保育料の軽減を行う。					一関市 平泉町
期待される効果	子育て世代の経済的負担の軽減をし、安心して子どもを産み育てる環境づくりが図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		19,140	19,140	19,140	19,140	19,140
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	定住促進に向け、両市町が共通認識のもと取り組むものであり、子育て支援のため、両市町が独自に保育料の軽減を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

【協定の内容】

①介護サービスの基盤整備

取組の内容	介護サービス・施設入所待機者の早期解決を図るため、施設整備をはじめ、高齢者が介護を要する状態になっても可能な限り地域や家庭で自立した生活を続けられるような支援、また、在宅での介護支援に取り組む。
一関市の役割	高齢者が在宅での自立した生活を送りながら地域や社会の中で活躍し続けることができるよう、介護予防の啓発指導のもとに健康づくりやリハビリ活動の展開を推進する。
平泉町の役割	高齢者に対する介護サービス体制の充実を推進する。

【具体的な取り組み】

事業名	地域医療・介護連携推進事業					関係市町
事業内容	医療と介護の情報共有を推進し迅速な受診環境の整備を進めるとともに、地域介護ネットワークの構築を目指す。					一関市 平泉町
期待される効果	医療依存度の高い要介護高齢者の迅速な受診環境を整備し、圏域住民の安心と安全が確保される。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					▶
事業費見込(千円)		5,550	5,550	5,550	5,550	5,550
補助事業等の名称等	地域医療・介護連携モデル推進事業費補助金					
役割分担の考え方	医療と介護の連携を構築するため、一関市が両市町の介護関係職員を対象に研修会等を実施し、平泉町がその費用の一部を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

### (3) 産業振興

#### 【協定の内容】

##### ①世界遺産「平泉」を中心とする観光の振興

取組の内容	圏域への誘客につながる広域的な観光商品の提供を行うため、観光ニーズを把握し、仙台圏、東京圏への効果的な情報発信を図るほか、圏域への観光客等への情報提供、サービスの向上を図り、観光地としての魅力向上に取り組む。
一関市の役割	観光資源の掘り起こしと魅力発信のため、関係機関・団体との調整及び企画運営を行い、世界遺産「平泉」を中心とする観光地の魅力向上に努める。
平泉町の役割	関係機関・団体との調整及び企画運営を行い、世界遺産「平泉」を中心とする観光地の魅力向上に努める。

#### 【具体的な取り組み】

事業名	一関・平泉バルーンフェスティバル事業					関係市町
事業内容	スカイスポーツである熱気球によるバルーンフェスティバルを開催し、圏域内への誘客の推進を図る。					一関市 平泉町
期待される効果	イベントを開催することにより、社会的、文化的、人的交流を通じ、まちづくりや地域の振興及び活性化が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費 見込 (千円)		12,611	12,611	12,611	12,611	12,611
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域へのさらなる誘客を図るため、両市町を含む関係団体で構成する実行委員会が実施する事業に対し、一関市がその費用を負担し、平泉町は事業への協力を行う。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	観光地間二次交通整備事業						関係市町
事業内容	平泉の文化遺産と一関市の主要観光地とを結ぶ二次交通を整備することにより、観光客の交通手段の利便性の向上を図る。						一関市
期待される効果	周遊観光を促進させ交流人口と滞在時間の増加による地域活性化が図られる。						
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	
	事業の実施						→
事業費見込(千円)		4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	
補助事業等の名称等							
役割分担の考え方	圏域へのさらなる誘客を図るため、一関市と平泉町の観光地を結ぶバス運行を一関市が実施し、その経費を負担する。						

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	一ノ関駅屋上看板リニューアル事業						関係市町
事業内容	一ノ関駅の屋上看板を世界遺産「平泉」のイメージに合わせるため、リニューアルする。						一関市 平泉町
期待される効果	観光客へのイメージの向上により、誘客効果が図られる。						
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	
	事業の実施	→					
事業費見込(千円)		4,396					
補助事業等の名称等							
役割分担の考え方	圏域のイメージ向上のため、平泉観光の玄関口である一ノ関駅の看板リニューアルを両市町が実施し、それぞれ必要な額を負担する。						

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	いちのせき「もち」ブランド化支援事業					関係市町
事業内容	一関地方の伝統食文化である「もち」を活用したグルメイベントを開催し、一関地方のもちのブランド化を目指す。					一関市 平泉町
期待される効果	「もちの聖地いちのせき」を全国に向けてPRすることにより、交流人口の拡大が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域として、もちのブランド化を図るため、圏域内の団体に組織する実行委員会が実施する事業に対し、一関市がその費用を負担し、平泉町は事業への協力を行う。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。



【協定の内容】

②中小企業の育成等の工業振興

取組の内容	産学官連携による企業の技術開発等を促進し新たな産業や事業の創造を目指すとともに、地域の中小企業の育成や企業が立地しやすい環境整備と企業誘致活動に取り組む。
一関市の役割	公益財団法人岩手県南技術研究センターや一関工業高等専門学校等を活用した産学官の連携など、地域内企業連携の一層の促進を促し、競争力のある産業の育成を図るほか、企業誘致活動を積極的に行う。
平泉町の役割	企業誘致活動と中小企業の安定した成長が図られるような取り組みを行う。

【具体的な取り組み】

事業名	企業の魅力発信力向上事業					関係市町
事業内容	地域企業情報ガイダンスやセミナーの開催等を行い、企業の魅力発信の支援を行う。					一関市 平泉町
期待される効果	企業取引の拡大、新規産業への参入、雇用の創出・安定が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込 (千円)		3,487	3,487	3,487	3,487	3,487
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域内の中小企業育成に向け、両市町が連携して企業の情報発信のセミナー等を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

【協定の内容】

③農産物のブランド化などの農業振興

取組の内容	圏域の豊かな農産物資源等を活用した付加価値の高い商品や販路開拓に対する支援に取り組む。
一関市の役割	圏域の農産物の知名度向上と、消費者からの適正評価を得るため、生産者組織等が実施する販売促進活動等の支援を行う。
平泉町の役割	生産者組織等が実施する販売促進活動等の支援を行う。

【具体的な取り組み】

事業名	地産外商促進事業					関係市町
事業内容	一関産としての地域ブランドを創出していくため、農産物と、それを活用した食文化にもスポットをあて、地元の農産物と食をトータルで考え、新たなスタイルによるブランド化への仕組み作りを推進する。					一関市
期待される効果	自らが生産する農産物に誇りを持ち、自信を持って一関ブランドとして市内外に売り出す意識の高揚が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		4,260	4,260	4,260	4,260	4,260
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域の農産物のブランド化に向け、世界遺産「平泉」のイメージ戦略と併せ、一関市が都市圏でのイベント等を実施し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	農林業 6 次産業化支援事業					関係市町
事業内容	6 次産業化促進に向けた研修会や講演会、また有志団体によるワークショップを開催し、一関産農産物のブランド化を推進するため、JA や生産組織等が実施する販売促進活動の支援を行う。					一関市
期待される効果	地域資源を活用した商品開発、テストマーケティング、販売までを研修・実践することにより、6 次産業化の促進が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込 (千円)		8, 193	8, 193	8, 193	8, 193	8, 193
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	6 次産業化を促進するため、両市町をエリアとする JA との連携のもと、一関市が研修会等を実施し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	地域農産物等直売施設整備事業					関係市町
事業内容	圏域内の生産者等の販路開拓のため地域農産物の直売施設の整備を行う。					平泉町
期待される効果	生産農家が消費者へ直接農産物を販売することにより、営農意欲向上と地域の活性化が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	施設の整備			→		
	施設の運営					→
事業費見込 (千円)		14, 100	222, 000	27, 000		
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域内の生産者等の販路開拓を図るため、農産物の直売施設を平泉町が整備し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

(4) 教育及び文化

【協定の内容】

①教育環境の整備や教育内容の充実

取組の内容	安全な教育環境の確保とあわせ、家庭、学校、地域、行政が一体となって子どもたちを育てていく環境を目指し、個性を大切にしながら確かな学力と豊かな人間性を培い国際理解や郷土理解の学習など総合的な人づくり教育に取り組む。
一関市の役割	確かな学力を育むため、児童生徒一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細やかな指導や生きる力の育成や豊かな人間性を育むための教育を推進する。
平泉町の役割	確かな学力を育むため、児童生徒一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細やかな指導や生きる力の育成や豊かな人間性を育むための教育を推進する。

【具体的な取り組み】

事業名	学校給食運営事業					関係市町
事業内容	生徒の心身の健全な発達や食に関する正しい理解と適切な判断力を養うため、平泉町の中学校への学校給食の提供を行うもの。					一関市 平泉町
期待される効果	生徒の適切な栄養の摂取により健康の保持増進が図られ、また、新たな施設整備の経費が軽減される。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込 (千円)		57,253	57,253	57,253	57,253	57,253
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	学校給食の安定的な提供を共同で行うとの考えに立ち、一関市が平泉町の中学校への学校給食を提供し、平泉町はその費用の一部を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

【協定の内容】

①生涯学習環境の充実やスポーツ活動の振興

取組の内容	圏域住民の多様な学習ニーズに沿った事業を図り、自主性を基本に据えながら地域づくりに発展する生涯学習の展開を目指すとともに、文化活動やスポーツ活動の活性化等のため、文化施設や社会体育施設の相互利用を推進するなどスポーツに親しめる環境整備に取り組む。
一関市の役割	圏域の生涯学習施設、文化施設及びスポーツ施設の利用の周知やイベント情報の取りまとめを行い、市民に対し、総合的な情報提供を推進するとともに必要な設備整備に努める。
平泉町の役割	圏域の生涯学習施設、文化施設及びスポーツ施設の利用の周知やイベント情報の取りまとめに協力し、町民に対し、総合的な情報提供を行うとともに必要な設備整備に努める。

【具体的な取り組み】

事業名	体育施設整備事業					関係市町
事業内容	圏域内の文化・体育施設等の相互利用を進めるとともに、必要な体育館の整備を行う。					平泉町
期待される効果	圏域内の住民すべてに文化活動・スポーツ活動への参加機会を提供することで、圏域の人づくりを活性化が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	体育館整備			→		
	相互利用の促進				→	→
事業費見込(千円)		0	112,580	717,420		
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域内の体育施設の相互利用を図るとともに、両市町住民の交流にも資するよう、平泉町が体育館を建設し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

【協定の内容】

③世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理

取組の内容	世界遺産「平泉」の拡張登録に向け、平泉文化及び個別資産の調査研究を進めるとともに、包括的保存管理計画に基づく保存管理に取り組む。
一関市の役割	骨寺村荘園遺跡をはじめとする個別資産等の調査研究及び保存に努める。
平泉町の役割	世界遺産「平泉」の文化遺産と併せ個別資産の調査研究及び保存に努める。

【具体的な取り組み】

事業名	世界文化遺産調査整備事業					関係市町
事業内容	「平泉の文化遺産」の調査保存を行い、その成果を後世へ繋いでいくもの。					平泉町 一関市
期待される効果	世界文化遺産のさらなる調査、整備保存を行うことにより、圏域の歴史、文化、観光等の中核とすることができる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業実施					▶
事業費見込(千円)		50,500	80,000	35,000	50,000	50,000
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域の財産である「平泉の文化遺産」を後世に繋いでいくため、平泉町が調査、保存整備を実施し、その費用を負担する。 併せて、一関市は、関連資産の調査を進める。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	世界遺産拡張登録推進事業					関係市町
事業内容	「平泉の文化遺産」の関連資産として、「柳之御所遺跡」や「骨寺村荘園遺跡」などの追加登録の推進を図る。					一関市 平泉町
期待される効果	調査や保存整備が行われることにより、世界遺産の拡張登録に向けた環境整備が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業実施					→
事業費見込(千円)		4,493	4,493	4,493	4,493	4,493
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	世界遺産拡張登録に向け、両市町が関連資産の調査、保存を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

(5) 消防防災

【協定の内容】

①消防防災体制などの充実

取組の内容	災害に備える圏域住民の防災意識を高めるとともに、消防力や予防体制の強化、救急・救助体制の充実に取り組む。
一関市の役割	消防防災体制を整備し、圏域住民の安全・安心を確保する取組を推進するほか、関係機関と連携し、住民の防災意識の向上に努める。
平泉町の役割	関係機関と連携し、住民の防災意識の向上を図り、安全安心な圏域づくりに努める。

【具体的な取り組み】

事業名	広域消防事業					関係市町
事業内容	圏域内で発生した火災、救急及び救助事案について、広域的な事案処理ができるよう一関市が業務を受託し実施する。					一関市 平泉町
期待される効果	住民の安全・安心の確保、向上が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		250,757	250,757	250,757	250,757	250,757
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	広域的、安定的な消防防災体制の構築に向け、一関市が圏域内の消防、救急業務を実施し、平泉町がその費用の一部を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。



## 2 結びつきやネットワークの強化

### (1) 地域公共交通

#### 【協定の内容】

##### ①バス等の地域公共交通の維持

取組の内容	人口減少及び高齢化の進展を見据え、圏域内外を結ぶ生活交通手段を維持確保するため、公共交通ネットワークの強化に取り組む。
一関市の役割	圏域住民の日常生活に不可欠な交通手段を確保し、地域間の交流及び福祉の増進を図るため、関係機関と連携し、効率的な生活バス路線及びコミュニティ交通などの利用促進活動に努める。
平泉町の役割	圏域内の生活バス路線及びコミュニティ交通などの利用促進活動に努める。

#### 【具体的な取り組み】

事業名	生活バス路線対策事業					関係市町
事業内容	圏域住民の生活に密接な生活バス路線の運行を維持するため、バス事業者への補助や市営バスの運行を行う。					一関市 平泉町
期待される効果	生活バス路線の運行を確保することにより、自家用車を自由に利用できない住民の利便性が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		32,264	32,264	32,264	32,264	32,264
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域内の生活バス路線の確保を図るため、両市町がバス事業者への補助やバス運行を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

## (2) 交通インフラ整備

### 【協定の内容】

#### ①圏域市町間を結ぶ主要幹線道路の整備と他圏域を結ぶ高規格道路の整備促進

取組の内容	圏域内外を結ぶ主要幹線道路等の整備を促進するとともに、市町境に係る道路整備のために連携し、交通渋滞の緩和や、交通安全の確保、生活の利便性の向上及び圏域内外の交流人口の拡大に取り組む。
一関市の役割	市道等の整備を推進するとともに、交通機能の整備に係る関係機関への働きかけを行うなど、交通網の整備に努める。
平泉町の役割	町道等の整備を推進するとともに、交通機能の整備に係る関係機関への働きかけを行うなど、交通網の整備に努める。

### 【具体的な取り組み】

事業名	基幹道路等整備促進事業					関係市町
事業内容	東北縦貫自動車道平泉スマートインターチェンジや圏域を結ぶ国県道の整備促進のため、連携し、要望活動や必要な取り組みを行う。					一関市 平泉町
期待される効果	圏域内外の交流人口の拡大が見込まれるほか、交通安全の確保、生活の利便性の向上が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込(千円)		9,159	20,000	40,000	273,000	200,000
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域の産業振興、観光振興を図るとともに、交流人口の拡大に向け、両市町が連携し要望活動等を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

事業名	幹線道路等整備事業					関係市町
事業内容	一関市及び平泉町間の幹線道路や圏域内の生活道路の整備を行う。					一関市 平泉町
期待される効果	交通安全や災害時の安全が確保され、生活の利便性の向上も図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					▶
事業費見込(千円)		372,190	320,000	320,000	320,000	320,000
補助事業等の名称等	社会資本整備総合交付金					
役割分担の考え方	圏域内の交流を促進するとともに、災害時の安全確保を図るため、両市町間の生活道路の整備を実施し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

(3) 協働のまちづくり

【協定の内容】

①行政と協働した地域づくり

取組の内容	行政、住民、各種団体等が相互に支え合うまちづくりに取り組む。
一関市の役割	市民と行政が役割分担をしながら共通の目標に向かってまちづくりに取り組む圏域づくりを推進する。
平泉町の役割	町民と行政が役割分担をしながら共通の目標に向かってまちづくりに取り組む圏域づくりを推進する。

【具体的な取り組み】

事業名	協働のまちづくり事業					関係市町
事業内容	協働意識の醸成や市民活動の促進を図ることにより、住民と行政の協働のまちづくりを進める。					一関市 平泉町
期待される効果	住民の行政への参加、参画を促し、住民協働型のまちづくりが図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施					→
事業費見込 (千円)		31,246	31,246	31,246	31,246	31,246
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	協働によるまちづくりの考え方や、進め方等について、互いに認識を深め合いながら、住民とともにまちづくりを進めていくため、両市町が協働によるまちづくり推進し、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

(4) 地域内外の住民との交流、移住促進

【協定の内容】

①移住定住の促進

取組の内容	移住定住に関する情報を一本化し、移住者の選択肢を広げ移住を促進するため、移住支援に関する情報を共有し、連携して移住希望者への情報発信に取り組む。
一関市の役割	圏域への移住希望者へ生活情報や居住情報の発信に努め、移住定住を促進する。
平泉町の役割	移住希望者へ生活情報や居住情報の発信の支援を行い、移住定住を促進する。

【具体的な取り組み】

事業名	移住定住環境整備事業					関係市町
事業内容	圏域への移住定住を促進するため、ホームページ等による情報発信や、空き家バンクの共同利用を行うとともに、移住受け入れ態勢の充実を図る。					一関市 平泉町
期待される効果	効率的な情報発信を行うことにより、圏域内への移住人口の増加が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業実施					→
事業費見込(千円)		37,472	37,472	37,472	37,472	37,472
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	圏域への移住定住の促進に向け、両市町が相互の情報発信に努め、それぞれ必要な費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

### 3 圏域マネジメント能力の強化

#### (1) 中心市等における人材育成

##### 【協定の内容】

##### ①外部人材の確保

取組の内容	生活機能の強化に係る政策分野及びむすびつきやネットワークの強化に係る政策分野の取組に必要な圏域のマネジメント能力を強化するため、専門知識等を有する人材の確保に取り組む。
一関市の役割	政策分野の取組に必要な専門的知識等を有する人材の確保に努める。
平泉町の役割	政策分野の取組に必要な専門的知識等を有する人材の確保に努める。

##### 【具体的な取り組み】

事業名	まちづくり総合支援事業					関係市町
事業内容	移住定住事業、食をテーマとした観光振興事業、6次産業化推進に係る事業等によるまちづくりを展開するため、専門的知識を有する人材を活用する。					一関市
期待される効果	事業実施にあたり、専門知識等を有する人材を活用することにより、人材の育成が図られる。					
実施スケジュール		H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
	事業の実施			→		
事業費見込(千円)		10,000	10,000	10,000		
補助事業等の名称等						
役割分担の考え方	まちづくりの戦略的事業展開に向けた共通認識のもと、一関市は、専門的知識を有する人材を活用した事業を実施し、その費用を負担する。					

※事業費見込は、現時点での連携市町の合計見込額を記載しており、毎年度の予算で具体額を定めます。

## 参 考 资 料





本共生ビジョンは、定住自立圏の形成に向けた具体的なアクションプランとしての性格を持ち、計画期間は5年間となっています。

しかしながら、定住自立圏の形成には、中長期的な視点からの継続的な取り組みが必要となります。

本共生ビジョン策定にあたり、一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会委員から、さまざまな意見・提案がありました。

その中には、両市町等での協議に時間を要するもの、現在の制度や財政的な面から、定住自立圏の形成に向けて必要であっても、直ちに反映することができないものもありました。

本ビジョンは、毎年度見直しを行うものであることから、これらの事項を今後の課題と位置付け、両市町の総合計画等と調整を図り、将来的な課題として整理しながら、今後具体的な連携施策の検討を行っていくこととします。

## 一関・平泉定住自立圏形成ビジョン懇談会委員からの意見・提案

### ①圏域の将来像について

- ・最も大事なものは雇用対策。それをもっと具体的に方向性が出せればいいと思う。

### ②具体的な取り組みについて

#### 【福祉分野】

- ・医療従事者に限らず介護スタッフの確保も難しい状況である。今後どういう施策が必要か検討していただきたい。
- ・保育料の軽減だけではなく、学童保育の待機児童の解消を図ってほしい。

#### 【産業振興分野】

- ・ブランド化について、宣伝すればブランドになるものではない。ブランド化のためには、その地域の人が誇りを持って使う、誇りを持って食べるという土台があってはじめてブランド化するという事だと思ふ。
- ・もち文化と骨寺村荘園については、ブランドであれ歴史的価値があるものであれ、その背景について地域の間が分かっていないと十分役に立たない。背景を理解してもらう事業活動が必要。
- ・これから I L C を考えると、情報発信は世界に向けてではないか。仙台東京だけではなく、世界に向けた発信をしていくことを長期的に考えていく必要がある。

## 【教育及び文化】

- ・教育の中心は「郷土理解の学習」ではないか。これを一番大切にしないと定住にはつながっていかないと考える。
- ・ILC に関連して、人をどう育てるかという視点で考えると、英語が話せる人も大切だが、それ以前にモノ作りが好きな人を育てる必要があるのではないか。
- ・科学を体験できる場所が必要だと思う。施設を作るのではなく、一関工業高等専門学校や県南技術研究センターと連携するなど、定期的に子どもたちを集め科学させる仕組みをつくってほしい。
- ・子どもたちへの科学教育が必要、予算は別にして事業化が必要ではないか。
- ・一関市の骨寺村荘園遺跡は平泉文化と切り離れたらただの田圃になってしまう。平泉文化と一体で考えるから価値があり、生きてくると思う。
- ・平泉の世界遺産の役割の中で、一関の役割をあえて骨寺村荘園遺跡をはじめとするという表現をとっているが、一関を含め平泉の世界遺産を保存していくという表現にした方がよいと思う。
- ・平泉文化の調査資料を一元管理できる情報センターのような場所が必要と思う。
- ・体育施設だけではなく、文化的なものを入れてほしい。
- ・体育協会では、交流人口を増やすための施策として全国規模の大会を開催しようと取り組んでいる。一関のUドームだけでは施設が不足している。平泉町でUドームと連携できる体育施設の整備が図れば良いと考える。
- ・体育施設の相互利用を推進してもらいたい。

## 【協働のまちづくり】

- ・協働のまちづくりについて、一関市ではアクションプランをつくって、今、地域協働体を作ることで進めている。平泉町はこれからということだが、理念とか定義の部分で、定住を考えている両市町でばらばらだとだめだと思う。

## 【その他】

- ・ILC 関連の事業が入っていないので、今後検討するようにしてほしい。
- ・ILC 事業に関連して、この中東北の地に国際会議場の建設を掲げてはどうか。
- ・お金がなくても知恵を出して事業を進めてほしい。
- ・定住というのは住むという部分なので、いかにこのビジョンを住民レベルまで落とし込んで、行政と住民が理解して動かしていくという所に他の地域の人魅力を感じるのだと思うし、圏域内の人住み続けようと思うのだと思う。これを生かしていくためには、机上だけではなく、住民レベルまで落とししていかなければならないと思っている。

## 【一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定までの経過】

年 月 日	内 容
平成 24 年 7 月	一関市において定住自立圏構想についての検討を開始。
平成 24 年 12 月	定住自立圏構想策定について一関市と平泉町の協議を開始。
平成 25 年 2 月 26 日 ～ 3 月 25 日	両磐地区広域市町村圏協議会事務局会議、幹事会において定住自立圏構想に関する意見交換。
平成 25 年 3 月 28 日	両磐地区広域市町村圏協議会総会において定住自立圏構想について検討することを決定。
平成 25 年 5 月 ～ 6 月	両市町において、中心市宣言案及び定住自立圏形成協定書案についての意見交換。
平成 25 年 6 月 21 日	一関市が定住自立圏形成協定に必要な議会の議決に関する条例の制定。
平成 25 年 6 月 21 日	平泉町が定住自立圏形成協定に必要な議会の議決に関する条例の改正。
平成 25 年 7 月 23 日	両磐地区広域市町村圏協議会総会において、定住自立圏構想について決定。
平成 25 年 7 月 23 日	一関市が「中心市宣言」を行う。
平成 25 年 9 月 7 日	一関市議会において定住自立圏形成協定締結について議決。
平成 25 年 9 月 20 日	平泉町議会において定住自立圏形成協定締結について議決。
平成 25 年 10 月 25 日	定住自立圏形成協定調印式を開催。
平成 25 年 12 月 24 日	第 1 回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会開催。
平成 26 年 1 月 15 日	一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会勉強会開催。
平成 26 年 1 月 28 日	第 2 回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会開催。
平成 26 年 2 月 19 日	両磐地区広域市町村圏協議会事務局会議において、定住自立共生ビジョンについての協議
平成 26 年 3 月 6 日	両磐地区広域市町村圏協議会幹事会において、定住自立共生ビジョンについての協議
平成 26 年 3 月 7 日	第 2 回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会開催
平成 26 年 3 月 28 日	両磐地区広域市町村圏協議会総会において、定住自立共生ビジョンについての協議
平成 26 年 3 月末日	一関・平泉定住自立圏共生ビジョン策定

## 一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱

### (設置)

第1 定住自立圏構想推進要綱（平成20年12月26日総行応第39号総務次官通知）第6に規定する定住自立圏共生ビジョン（以下「ビジョン」という。）の策定又は変更にあたり、民間や地域の関係者の意見を広く反映させるため、一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会（以下「懇談会」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2 懇談会は、ビジョンの策定又は変更に関する事項について、検討する。

### (組織)

第3 懇談会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 一関・平泉定住自立圏形成協定に掲げる取組事項に関連する分野の関係者
- (2) その他市長が必要と認める者

### (任期)

第4 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会長及び副会長)

第5 懇談会に会長及び副会長1名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6 懇談会は、会長が招集する。

### (庶務)

第7 懇談会の庶務は、企画振興部企画調整課において処理する。

### (委任)

第8 この告示に定めるもののほか、懇談会の運営に必要な事項は、市長が別に定める。

一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿

平成 25 年 12 月 24 日現在 20 名（敬称略、五十音順）

	氏名	団体等	備考
1	阿部新一	一関市商工会議所	
2	及川菊夫	一関市社会福祉協議会	
3	小野寺郁夫	NPO みんなでつくる平泉	
4	小野寺浩樹	NPO 一関市民活動センター	
5	菊地恵子	一関市校長会	
6	菊地慶矩	両磐インダストリアルプラザ	
7	木村静恵	一関市総合計画審議会	
8	小室光子	平泉町総合発展計画審議会	
9	佐藤憲一	岩手南農業協同組合	
10	佐山昭助	一関市体育協会	
11	菅原幸子	一関市医師会	
12	鈴木四郎	平泉町世界遺産推進協議会	
13	千葉繁	平泉観光協会	
14	千葉正	平泉町体育協会	
15	千葉博	一関市総合計画審議会	
16	千葉裕子	平泉町総合発展計画審議会	
17	永澤由利	一関市総合計画審議会	
18	畠中良之	一関市総合計画審議会	会長
19	丸山安四	平泉町総合発展計画審議会	副会長
20	山田一	平泉町社会福祉協議会	